

2013年11月7日

## CDPにより、2年連続で気候変動情報開示先進企業に選出

住友化学は、このたび、国際的なNPO法人である「CDP<sup>(\*1)</sup>」から、昨年引き続き、最も気候変動に関する情報開示に優れた企業として、「クライメート・ディスクロージャー・リーダーシップ・インデックス（以下、CDLI）<sup>(\*2)</sup>」に選出されました。

722の機関投資家（運用資産総額87兆米ドル規模）を代表して活動しているCDPは、企業の気候変動対応に関する質問書を全世界の企業約5,000社に毎年送付し、その回答内容を評価の上、特に情報開示に優れた企業をCDLIに選出しています。日本では主要企業500社に対して調査が実施され、住友化学は、昨年引き続き「素材・原材料部門」で最高得点となり、総合化学企業の中で唯一CDLIに選出されました。

CDPはCDLIについて「企業の気候変動に対する説明責任への要求はますます高まってきているが、CDLIに選出された企業は、その要求に応えている企業である。このような企業は、温室効果ガス排出量やエネルギー使用量の算定、また気候変動戦略の透明性の確保に優れていると言える。」と説明しています。

住友化学は、今後も気候変動情報の開示を推進し、社会からの信頼性向上を図ってまいります。

以上

(\*1) 2013年に、「カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト」から「CDP」に名称変更。

(\*2) 2013年の調査より、「カーボン・ディスクロージャー・リーダーシップ・インデックス」から「クライメート・ディスクロージャー・リーダーシップ・インデックス」に名称変更。